

平成 25 年度 理学療法学科（昼間部）
教育課程編成委員会議事録

1. 委員会名 第二回教育課程編成委員会

日時：平成 25 年 2 月 4 日（火） 19：00～19：30

場所：臨床福祉専門学校 3F 会議室

出席委員及び所属

中村 岳雪（東京都理学療法士協会理事〔田無病院副診療部長〕）

下川部 雅也（山田記念病院技師長、理学療法学科卒業生）

内野 滋雄（臨床福祉専門学校 学校長）

石垣 栄司（臨床福祉専門学校 理学療法学科 学校長）

神田 太郎（臨床福祉専門学校 理学療法学科 副学科長）

萬崎 保志（臨床福祉専門学校 事務次長）

金子 学（臨床福祉専門学校 学務課長）

樋口 豊朗（臨床福祉専門学校 教務主任）

2. 議事要約

1) 学校長挨拶

早くから現場に出て色々な知識を身につけさせるといった新しい教育方法実現の為に色々なご意見・アドバイスをお願いしたい。

2) 議事要旨

議題：〔本校の学生に見合った「コミュニケーション力」の強化について〕

■実習の際、患者様とのコミュニケーションに学生が苦勞している場面がみられるため、座学より実習時間をより多く取るようなカリキュラムの方が即戦力養成につながるのではないかと意見に対し、厚労省の規定や各養成施設のカリキュラムの組み方の傾向としては、むしろ実習時間を短くし座学の時間が増加している現状が学科から報告された。

■実習の目的のひとつとして専門職としてのコミュニケーション力の向上を目指すならば、実習後にディスカッションを取り入れるのも一つの手段なのではないかと提案があった。

これに対し、学科では実習の終了後に必ず実習報告会を催しており、報告会では質疑応答の時間も設けているが、ディスカッションまでは到達していない。見学実習の段階であれば、終了後にグループワーク（演習）としてディスカッションの時間を設けることは可能であるとの見解が示された。

但し、2 年次以降は他の科目でもグループワークが増えてくるため、科目ごとにグループワークの単位が異なることで、学生の側に混乱を生むことは避ける必要がある。

■26 年度の見学実習後、実習後の印象を話し合ったりするようなディスカッションを演習の中に取り入れるよう、是非検討してみてもどうかとの提案があり、具体化へ向けて意見

交換を行った。

事務局からの説明では、科目そのものの変更と位置付けるとすれば26年9月までに新カリキュラムを策定し、関東信越厚生局に事前申請を行うのが最短。そのため、すでに開講している専任教員の担当科目の一部についてシラバスを変更し、ディスカッションワークに充てるなどの対応が現実的。3月末までに1年生の配置科目のどれを活用できるか、学科内で検討することになった。

3. 教育課程編成委員会の意見の今後の活用

- ・ 理学療法士が人に対する職業であるという観点から、コミュニケーション力の涵養をカリキュラムに含めることは重要。そのスキームとしては、やはり実習をベースにするのが妥当である。
- ・ 1年生で実施する見学実習の終了後に、これまで実施してきた実施報告会だけでなく、より個々の体験に基づいたディスカッションを行う講義を新たに取り入れる。
- ・ 新科目としては困難なため、26年度は専任教員が担当している科目の中で3コマ程度をこのディスカッション振り分ける。
- ・ このワークの際、アドバイザーとして卒業生の協力を得る事が可能か、学科教員から近隣病院に勤務する現役の理学療法士数名に協力を依頼する。

以上